

平成30年度 学校評価アンケートの結果と分析

平成31年1月11日(金)西会津高校

アンケート回収率:生徒100%(前年度比+2.2)、保護者100%(前年度比+21.7)、教員100%(前年度比+4.3)

1 学校評価に関わるアンケートの結果をどう見るか

(1) 本校に対する全体的な満足度

「14学校に満足している」という項目は、前年度までの『生徒はどう思っていると思うか?』という設問趣旨を改め、『それぞれの立場(生徒・保護者・教員)で満足できる学校か?』という内容にした。したがって単純な比較はできないものの、昨年度と比べると生徒・保護者で満足度が上がり、教員の満足度が下がるという結果になった。これには、学年1クラス化にともなう急激な改革にとまどう教員の姿が見て取れ、アンケート中のコメント欄にもそれを危惧すると思われる記入がある。

今後、学校組織内での協議・検討・理解の共有にさらに丁寧さが求められるとともに、西会津高校が直面する教育環境の激変に対応するためにはスピード感を維持した処理と本当に生徒に求められる学校にすると課題意識に基づく確かな実行力が不可欠であり、それらを念頭に置いた学校経営が必要である。

(2) 学習指導についての評価

「1教師は生徒の実態に応じた授業をしているか」「2学校の授業の難易度をどう捉えているか」の項目では、対前年比で生徒から高評価を得ており、教員の授業改善の取り組みに一定の成果があがっている。

しかし一方で、教員の授業に対する生徒・保護者からの否定的な回答が見られることも事実であり、アンケート中のコメント欄にも具体的な批判が寄せられている。これらの内容を学校として真摯に受け止め、さらに授業改善につなげる必要がある。

本年度「学校評価アンケート」とは別に、各教員の授業において生徒から「授業アンケート(各教員1科目以上かつ年間2回以上)」を採った。4月から12月までの期間に、教員実人数13名の授業において1学期26回、2学期48回、計74回(教員一人平均6回弱のアンケート実施)、アンケート票総数733枚(生徒一人あたり11回弱アンケートに答えたことになる)の規模で実施した。授業に改善の余地がある結果が出た場合には、そのつど個別に、当該教員に対して管理職から注意や指導を行った。その取り組みも一定程度“わかりやすい授業”の実現に寄与していると思われる。ただ前述のとおり授業改善の余地はまだ存在する状況であることから、これらの活動も継続して行う必要があると考える。

家庭学習の状況は必ずしも芳しいとは言えず、この点の指導について、学校としての取り組みの抜本的な転回が求められる。

(3) 生徒指導についての評価

「5生徒はあいさつ・服装・頭髪がしっかりしている」「6生徒は登校時間、授業時間や提出物の期限などを守っている」に対する生徒・保護者のA・B評価は90%前後となっており、全体として生徒は落ち着いた学校生活を送っていると評価できる。

(4) 委員会活動、部活動についての評価

「7生徒は委員会活動や部活動に積極的に取り組んでいる」の項目では、前年度比でAB評価が上がり、CD評価が下がっている。部活動や委員会を再編した結果、平成30年4月からその数を大幅に減らして再スタートしたものの、生徒はそれぞれの部や委員会などで自分の居場所を見つけ、納得のいく活動が続けられている生徒が多いものと読み取れる。

ただし、今後のさらなるスタッフの減少と少子化を進展を見据えると、学校における部活動についても基本に立ち返って考え直す必要が感じられる。例えば、他高校との部活動における連携などや、さらには学校から部

活動を切り離し、社会教育におけるクラブスポーツとの連携など、タブーなき再検討が必要ではないだろうか。

(5) 相談体制についての評価

「8学校には悩みを相談できるスタッフがいる」では、当事者である生徒の評価が他の二者(保護者・教員)と比して相対的に低いことに加え、前年度比でもAB評価が低下している。今後、教員数がさらに減少することを考えると、積極的に人を外に求め、教員だけではない人材の活用によって生徒へのケアを充実させることを検討する必要があると思われる。

(6) 進路指導についての評価

進路指導に関する項目9・10では、生徒・保護者のA・B評価の低下が見られる。よりオープンでわかりやすい、学校スタッフ全員あげての進路指導のあり方を検討する時期にきていると考えられる。

(7) 地域連携についての評価

本年度の学校経営・運営ビジョンにも掲げた“地域活性化の一翼を担う学校づくり”について検証するため、今回から項目12を設定した。概ね肯定的な回答が多かったが、生徒のAB評価が他二者(保護者・教員)と比して低い。地域活性化につながる活動は特定生徒に偏る傾向が指摘でき、今後より多くの生徒に活動の場を提供することが課題と考える。

(8) 広報活動についての評価

項目13では生徒のAB評価が対前年比で高まった。保護者は対前年比でそれほど動きはないが、平成29年度における保護者のA評価が対前年(平成28年度)比+27ポイントと大幅にアップしたことを考えると、高止まりになっていると考えられる。昨年度から保護者への直接メール配信を開始した効果だと思われる。

教員の評価が下がっているのが目立つ。これはスタッフ減少による多忙感から「発信できていない」と自戒を込めて評価したものか。

2 学校全体としての成果と課題

(成果)

- (1) 学校の魅力化のための検討に取り組み、「西高PC」という形で具現化できた。
- (2) 西会津町との連携を進め、今後の学校のあり方について腹藏なく継続的に協議を続けることができた。
- (3) 西高魅力発信隊の活動が「ふくしま産業賞学生銀賞」「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」に検証され、生徒の自信につながった。

(課題)

- (1) 「西高PC」に基づく授業改善を校是として進め、生徒と保護者の満足につなげていく必要がある。
- (2) 外部との連携を進め、本来の意味の「チーム西会津高校」を実現する必要がある。
- (3) 「総合的な探求の時間」を軸に地域とつながる教育の実践が求められる。